

エージェンシーを発揮する生徒を育む 特別支援学校のこれからの学びを考える

企画者	松見 和樹	（千葉県教育委員会）
司会者	松見 和樹	（千葉県教育委員会）
話題提供者	古江 陽子	（千葉県立特別支援学校流山高等学園）
指定討論者 1	福本 徹	（国立教育政策研究所）
指定討論者 2	青木 隆一	（千葉県教育委員会）

KEY WORDS: OECD Education2030, エージェンシー, 知的障害教育

【企画趣旨】

OECD Education2030 プロジェクトは、2030 年の未来に必要なコンピテンシー（資質・能力）とそれを育むための新たな学習の枠組みとしてラーニング・コンパス（学びの羅針盤）を示した。この中で中心的な概念として位置づけられた生徒エージェンシーの発揮は、障害のある児童生徒にとっても、急激に変化する時代の中で、自らの良さや可能性を認識しつつ持てる力を十分に発揮しながら自立し社会参加していくために欠かせない力である。2014 年 1 月に日本政府が批准した「障害者の権利に関する条約」は、「私たちの事を私たち抜きで決めないで（Nothing About us without us）」を合言葉に世界中の障害当事者が参加して作成されたものである。このように、他人に自分のことを決めさせるのではなく、自身で決断し行動しながら自分の未来を形作っていくことはエージェンシー発揮の一つであると考え。障害のある児童生徒がこれからの激動の時代を生き抜き、積極的に社会参加し、よりよい社会の担い手となるためには、日頃の教育活動を通してその資質・能力と自ら行動する力の育成を図る学びを充実していくことが求められている。本シンポジウムでは、エージェンシーの発揮に必要な 3 つのコンピテンシー（①新たな価値を創造する力、②対立やジレンマに折り合いをつける力、③責任ある行動をとる力）の育成に焦点を当て、特別支援学校における実践事例を紹介しながら、その考え方と支援方法を探ることでエージェンシーを発揮する生徒を育む特別支援学校のこれからの学びを考えていく。

【話題提供者の趣旨】

千葉県立特別支援学校流山高等学園は、高等部単独の専門学科を置く特別支援学校である。本校研究（2016～2020）において、これからの変化の激しい社会をより豊かに生き抜くためには、特別支援教育においてもエージェンシーの発揮が重要であると考察した。そこで、令和 3 年度より文部科学省研究開発学校として、エージェンシーの発揮に必要な資質・能力の育成を目指す領域「私の時間」を新設し、カリキュラム開発を行なっている。新領域「私の時間」は「Well-being に向かって自分の進むべき方向を見つけ、自分を舵取り・調整していく学習」である。研究では、新領域「私の時間」を基軸とした教育課程を編成しながらカリキュラム開発・実践・検証を行なっている。生徒が新領域「私の時間」の学びと学校生活全体のつながりが持てるようカリキュラム・マネジメントをすることによって、より学習者主体で個別最適な学びを実現でき、エージェンシーの発揮に迫ることができるのではないかと仮定している。本シンポジウムでは、新領域「私の時間」の目的・内容と実践①ICT「Ne! クスト」を用いた自己分析・課題設定に関する学習②共同エージェンシーに着目した意思決定に関する協働的な学習（先生相談会）について話題提供を行う。

【指定討論者 1 の趣旨】

エージェンシーとは、「行為主体性」などと訳されているが、OECD Education2030 におけるエージェンシーは「変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」（OECD,2019）と定義されている。より VUCA（Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性））となる未来においては、教師から指示されたことだけをこなしたり、企業から求められる労働者を育てたりするだけでは足りない。自分たちが実現したい未来を自分で考えて、目標を設定し、そのために必要な変化を実現するために行動に移していくことが、本質的に重要である。また、単に自分の欲求に従って行動するだけではなく、生徒がその属する社会に責任を負い、また、そのことを自覚することが重要である。この意味で、単なる主体性とは大きく異なる概念であり、問題発見、目標設定と振り返り、責任ある行為主体、それらを自覚的に行うこと、これからの特別支援教育に必要な概念であり、また、学習者にとっても獲得したい資質・能力である。

【指定討論者 2 の趣旨】

学習指導要領では、一人一人の児童生徒が、持続可能な社会の創り手となるように、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を 3 つの柱とする資質・能力の育成を重視している。エージェンシーは、「自ら考え主体的に行動し、多様な人々と協働しながら、持続可能な社会へと責任をもって変革していく力」と説明されており、エージェンシーを発揮する生徒の資質・能力の育成において、学習指導要領の着実な実施が重要となる。また、「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告」において、「障害の有無に関わらず誰もがその能力を発揮し、共生社会の一員として共に認め合い、支え合い、誇りを持って生きられる社会の構築を目指す」と示されたように、現在の学びを基礎とした 2030 年の未来に必要な資質・能力を育むための学習の枠組みについて考えていくことも併せて重要となる。指定討論では、話題提供者による実践を踏まえ、エージェンシーの発揮につながる資質・能力の育成について要点を整理する。

【ディスカッション】

エージェンシーを発揮する資質・能力の育成に向けた学びの現状と展望について、特別支援学校の実践を基に協議する。

（文献）

白井俊,「OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来」, 2020

中央教育審議会,「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）, 文部科学省, 2020

(MATSUMI Kazuki, FURUE Yoko, FUKUMOTO Toru, AOKI Ryuichi,)